

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3495000022
法人名	社会福祉法人 誠心福祉会
事業所名	誠心園グループホーム
訪問調査日	平成22年2月25日
評価確定日	平成22年4月20日
評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3495000022
法人名	社会福祉法人 誠心福祉会
事業所名	誠心園グループホーム
所在地 (電話番号)	江田島市江田島町宮ノ原三丁目18番66号 (電話) 0823-42-6177

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	〒732-0816 広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価確定日	平成22年4月20日

## 【情報提供票より】(22年2月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	6人, 非常勤 9人, 常勤換算 11.8人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造アルミニウム板葺き平屋造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,100 円	その他の経費(月額)	管理費28,500 円 他	
敷金	有( 円)	無○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380		円	

### (4) 利用者の概要(2月8日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名	
要介護3	8 名	要介護4	1 名	
要介護5	1 名	要支援2	2 名	
年齢	平均 88 歳	最低	82 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	水口医院, 済生会呉病院, 兼池歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

島しょ部に位置するグループホーム誠心園(以下ホーム)は、特別養護老人ホーム他併施設を有する、社会福祉法人誠心福祉会を母体として運営されています。建物は沿岸より少し奥まった位置にあり、周辺には特産のみかん畑もあり、ゆったりとした敷地です。玄関までの小径にはケヤキの樹が両側に立ち並び、周辺には四季の花々が植えてあります。街中では見られない自然豊かな情景の中で、利用者は、思い思いの生活を楽しみ、穏やかな日々を送っておられます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は初回であり、課題はありません。  今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の意義を理解され、評価の結果、改善点や課題を発見し、サービスの質の向上につながるよう取り組みを検討されています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議の主な内容は、ホームの入居状況や運営に関わる報告事項、地域からの行事予定、行政からの報告等となっていました。また、昨年度は消防訓練についての意見交換が行われており、地域の協力を得て避難訓練が行われました。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	ホームに苦情相談窓口を設置し、要望が言いやすい雰囲気作りに心がけておられます。また運営推進会議においても家族が出席できるようにしており、外部者への意見を表せる場として議題を設定、検討し運営に反映させておられます。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育所の発表会、区民運動会等の行事に積極的に参加されています。また、地域との交流を深めるよう働きかけたり、散歩時に挨拶を交わしたり、地域へ溶け込む姿勢を示しておられます。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に、「心に寄り添える暖かい暮らしの提供」「一人、一人の希望に沿った生きがいのある生活の提供」という理念をスタッフで立案されています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフルームの壁面に掲げ、日頃から意識づけが行われています。また、ミーティング時等で理念の再確認をし、実践に向けて日々取り組んでおられます。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	過疎化が進む島しょ部では、地域活動も容易ではありませんが、保育所の発表会、区民運動会等へ積極的に参加、交流を深めるよう働きかけが行われています。散歩時の挨拶等で孤立しないよう地域へ溶け込む姿勢を示しておられます。		
常日頃より理念への意識づけがなされています。					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組む中でホームの方向性が明らかになり、「意義のあるもの」という認識を持たれています。また評価項目を確認し、日々の業務に生かすよう取り組んでおられます。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者は、区長、消防団長、民生委員、家族、市福祉保健部職員、地域包括支援センター等の参加を得て、ホームの入居状況、運営に関わる報告事項、地域の行事予定、行政報告が行われています。事前の提出議題をもとに活発な意見交換が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃からサービス内容について市町村担当者へ問い合わせを行い、質の良いケアに取り組んでおられます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3か月に1回、書面で近況報告が行われています。通常は面会時や電話等で、健康状態等の報告を行い、家族の安心につなげておられます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームにおいては苦情窓口が設けられ、家族が何時でも要望を伝えられるような雰囲気作りに心がけておられます。また、運営推進会議において家族が出席できるようにしており、外部者へ意見が表せるよう配慮されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他部門での経験が、質の高いケアの提供につながるという考えのもと、法人内の異動は行われています。人的環境が利用者にも与える影響が大きいことは理解されており、必要最小限に留めるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は、勤務その他の都合で全職員が受講することはできません。ミーティング等で研修内容を報告し、全職員が知識や技術を共有できるよう取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内に1か所同業者がありますが、交流までには至っていません。	○	研修の参加を通して、同業種の職員との交流を行い、さらにレベルアップを図られるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者や家族の見学を勧めておられます。希望があれば体験利用をしてもらい、不安感を取り除き、納得した後の入居となるよう配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	トマト、すいか等の畑作り、味噌汁の具材の切り方等、生活の知恵を利用者に教えてもらうなど、一人ひとりのできることを見出しながら、喜びを共にするよう努めておられます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で一人ひとりの思いを聞き出しておられます。電話や外泊の希望者に対しては、家族の理解を得て対応される等、利用者主体の安定し落ち着いた生活の支援に努めておられます。把握困難の場合は家族との話し合いで生活歴の中から本人の思いを引き出すようにしておられます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とケアマネジャーや理学療法士等、多職種の職員で話し合い、利用者や家族の希望に反映した計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の状態、状況の変化に応じて、見直しが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所内で開催される、生け花教室、書道、絵手紙、訪問行事等に参加する等、柔軟な支援を行い生活リハビリにつなげておられます。		
支援が					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切に、従来のかかりつけ医を希望する場合は引き続き受診できるようにされています。また希望の眼科医などの通院介助、通院困難な場合、往診を依頼する等柔軟な対応が行われています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者には、家族、主治医の話し合いで、併設事業所の特養へ入所を選択されるか、病院へ入院されるか、いずれかの方法が取られています。将来的には看取りも視野に入れて検討されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時等に、周囲に配慮した言葉かけや、本人の自尊心に配慮した言葉かけを行うよう、再確認しておられます。また、カーテンや衝立などの使用で排泄介助時のプライバシーが確保されています。書類の保管場所などにも適切な配慮がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせ、食事は希望時に食べられるようにされています。入浴も、本人の希望に合わせ午前、午後、毎日と柔軟な体制を取り、ゆったりした生活となるよう配慮されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体施設で調理されたものを中心に提供しております。また、ホームの畑で獲れた自家製野菜を利用して、副食、おやつ等を作って楽しんでもらっています。配膳、後片付け、台拭き等を職員と一緒にを行い、楽しい食事時間を過ごしております。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望した時間に入浴できるよう、体制が整えられています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の片付け、台拭き、洗濯物たたみ等、自分の役割として捉え、利用者にとっても張り合いになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然に恵まれた環境を生かし、ホーム周辺を散歩したり、菜園作りや、職員と一緒に買い物に出かける等、気軽に戸外に出られるよう支援されています。また、お花見や紅葉狩り等、季節に応じた遠出も行われています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアにより、出入りが自由にできます。建物は庭を中心に三方ガラス張りで見配りができ、縁側を散歩する等自然な形で利用者が穏やかに暮らせるよう配慮されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議には消防団長も参加し、地域の理解を得る努力をされています。また、消防署管理のもと、夜間想定も含めた訓練を昼間に行っております。	○	利用者の安心安全を守るために、今以上に防災訓練の頻度を増やし、瞬時の対応が円滑に図られるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の記録を行い、少ない利用者にはお茶に限らず代替品を用意し、トロミをつけ飲みやすい状態にしたり、高カロリー食品の補給をされたりと工夫がなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まで続くスロープの両側には、ケヤキの樹が立ち並び季節の花々が一面に植えられ、季節感のある空間づくりがされています。また、各部屋には広い縁側があり、ゆったりとした生活感の中で暮らせる工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子等、利用者の使い慣れた物を持ち込むことにより、居心地よく過ごせるような工夫がされています。		



